

2021年(令和3年)

12月号

No-2021-03
2021.12.31発行

広
報

Japan Practical Nurse Council

一般社団法人日本准看護師連絡協議会

准看協 News

特集 新人とベテラン准看護師の『体験談』

▼ 准看護師を志した動機と今後の展望

私が准看護師を志すようになったのは、2011年の時に起きた東日本大震災でした。当時、私は中学生でそれまでは漠然と人の助けになる仕事に将来就きたいと考えていました。そんな時にテレビ、ラジオから、救護活動で多くの医療従事者や、ボランティアの人達が被災地に出向き活動を行なっていることを知りました。その中でも、特に被災者に寄り添っていると感じたのが看護職の方々でした。看護技術はもちろん、コミュニケーションで安心感を与える看護職の姿に『かっこよさ』『憧れ』を感じ、私も看護の仕事に就きたいと思うようになったのがきっかけでした。

現在私は、精神科病棟で准看護師として勤務しています。現場では看護技術はもちろんですが、患者さんと関わる中で信頼関係が大切であり特にコミュニケーションの重要性を実感します。声の掛け方やスタッフの返答ひとつで精神状態が変わってしまう患者さんも

おり、コミュニケーションの難しさも感じる場面も多くあります。看護を行う中で、自分の感情を言葉や表情で現すことのできない患者さんへの看護援助は大変難しく、信頼関係が築けていないと小さな変化にも気づくことはできないと感じます。そのため私は、日頃からコミュニケーションを意識しつつ、患者さんのために何ができるのかを考えて、個別の対応や関りを大切にしたい看護を心掛けています。

私は、准看護師として2年目になります。これまで以上に求められることも増えるため、常に学ぶ姿勢を忘れずに日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。また、将来的には看護師の資格取得を目指しているので、業務だけでなく資格取得に向けた学習も進めたいと考えています。



小山田 将弥さん
秋田緑ヶ丘病院
准看護師

▼ 准看護師としての今

私が准看護師の免許を取得したのは40年以上も前で、当時は病院の寮に住んでいました。朝5時過ぎに起きて院内の掃除から1日が始まり、学校の時間以外は看護補助者として病院で働きました。仕事と学業の両立で、寸暇を惜しんで勉強したことを今でもはっきりと覚えています。卒業後暫くは病院で働きましたが、行政で働く機会があり保健師と一緒に「老人福祉法」による在宅支援に携わりました。介護保険の始まる前でしたから、訪問看護と訪問介護との両方を兼ねた内容の仕事が5年程続きました。その後「介護保険」が創設され、行政から「訪問指導」を行う事が難しくなり、訪問看護ステー

ションに移籍しました。そこから特別養護老人ホーム(特養)を経験し、家庭の事情で「夜勤専従」として働き、多いときは3交代の深夜と2交代の当直。特養のユニットの夜勤の3カ所を掛け持ちしていた事もあります。そして、それまでの経験を活かして「地域連携室の相談員」として病院に戻り勤務する中で「多職種連携」「チーム医療」などの知識を得て、人脈も広がり、私にとってこの時期がとても良い経験となりました。

そして今、その知識と経験と人脈から「施設」の管理者となりましたが、実務者研修受講など、管理者としての学習に限らず、今後も自己研鑽に努めます。

執筆:末岡恵美(准看協副会長)